

平成22年7月23日
住友生命保険相互会社

資産運用システムにクラウドコンピューティングを採用

住友生命保険相互会社（取締役社長囑代表執行役員 佐藤 義雄）は、日本電気株式会社（代表取締役執行役員社長 遠藤 信博 以下「NEC」）とスミセイ情報システム株式会社（代表取締役社長 社長執行役員 佐竹 新一郎 以下「スミセイ情報システム」）と共同で、平成23年9月を目処に、資産運用システムのインフラ基盤にクラウドコンピューティングを採用します。

NECのクラウドサービス基盤（サービスプラットフォーム）とスミセイ情報システムの業務ノウハウを連携させることによって、セキュリティやサービスレベル面など、最適なクラウドコンピューティングが実現するものであり、資産運用システムにクラウドコンピューティングを採用するのは、生命保険業界初となります。

「クラウドコンピューティング」採用によるメリット

1. 資産運用業務の強化

サーバーや関連機器を保有しないことから、コスト削減に加え、環境変化に応じたシステムの変更が容易になります。システム化の対応スピードが求められる資産運用業務においてシステム開発スピードを短期化することを通して、資産運用業務の強化につながります。なお、今回のクラウドコンピューティング採用によって、資産運用システムの開発・維持・管理等にかかるコストを従来と比べて約40%削減（5年間トータル）できると見込んでいます。

2. セキュリティの強化

金融機関向けクラウドとして金融機関対応のデータセンターの利用等により、一層のセキュリティ向上につながります。

3. 資産運用システムのインフラ基盤として広く金融機関に販売

住友生命グループとしては、スミセイ情報システムの業務ノウハウ等を活かした資産運用システムでのクラウドサービスをNECと連携し広く他の金融機関にも販売していく予定です。

概念図は添付のとおりです。

以上

概念図

現状(所有型)

クラウド化(利用型)

